

典國石印
I
7

配炭公團
九州支團綴
旧第十一号



三月十七日 十時

田川地区

於三井室所京

一、議題

- (1) 貨車繰返状勢並に就變炭輪並に配車に關して (一) 運賃(国より)
- (2) 最近の就變炭輪出賃状況に付て (二) 石炭(船賃より)
- (3) 配車状況並に供給計畫に付て (三) 公債(額より)
- (4) 三月中供給計畫の再檢討
- (5) 四月中供給計畫の再檢討
- (6) 其他送炭打合せに付て

三月中一供給計畫の再檢討に付て

四月中一供給計畫に付ては御手紙を如はして差に差補して居りますが今
も御面側ながら別紙送炭(炭)夫々御記入の上當日必ず御持参下さい

(1) 三月中供給見込表

(2) 各官署十日迄の数量を御記入願ひます

(3) 四月中繰返別供給實際見込表

若し何れも多量に御持参下さい事は存じますが御公論として
貴御提出の右資料に基き先般御下下さいに在りて石炭部支局へ提出
ますので最近の行情を海と御参照下さいませに御参照の上更に責任ある
もの御申出下さいませ此の段時に御願ひ申し上げます

「五月分展覧物、年報、出版費表」は本會に同様の出版物もあ
りますので、本日世に保持して下さい。

敬

具

若支調書三一號

昭和二十四年三月三日

寫

辨九州支隊(弁録局)
勤務部、警務部、所
監察部、所、存田、飯城、上山田、折尾、
山元此在員

配授公團九州支隊警務部

調書部

長

身廻支隊

長

調

7 64
敬請の候とも相成りましが益々御家高の段御悦び申上げます
常公團も健足以宛一年有年其の間御々御不審も御座いましたで
が大過なく公団業務に専念して頂きましたことは御座います
協力の賜と深く感謝致してゐる次第で御座います
然し乍ら願ひみますとまか／＼反省改善致さねばならぬ點も亦々
御座います 殿中常公團の至上面命である御座り御座います
に於て其の感を深くする次第で御座います



假令言々所方より山元院在員に指示致し居りませ申頭を優先とする
向先急均分抽出に似せしめて之を山元院に詳細検討致しませすと必ず
しも満足出来なぬものがあり緊急手帳致しませても時に其の實態を
察付け得なかつた事も懸念いたしました
勿論株主と山元院在員との連絡不充分が主な原因ではあつたやう
が貴方の奮闘力を務めて居れば避け得られんと是はれる場合も御座い
ました
山元の特殊事情は既述事情等種々御困難な御事情も御有りの御事
とは存じませすが適正抽出の執行に御身致し居りませ申山元院在員の
徹底御取願ひ此の上貴の御協力を頂く事により其の真價を十二分
に發揮さしてやつて頂き度いと存じませして吐息に重ねて御協力御高
尊を懇願致す次第です

以
上

光緒二十六年正月

准知事官正月七日

寫

門外分司開印本府東門外長官署
經理事務世傳謝世部



姓名	謝世部
職名	經理事務
官階	世傳
備考	

拜領 奉 存上可下 陳者

從本府前度使地檢備上切込票を使用する爲流金切込制を適用
買取居りたる流金切込制は右に同じに思わしめざる其あり
致違制の申出を爲るて今限之を中止すこと、致しきこと
流金切込を並りて止すこと、送及座依上支障の同きこと
因り此去すこと、同十日以降、御都合に依り流金切込は省納
價金は未だ切込票を以て處理致しきこと、先程御了天御額申
上可下

右切込切申上可下

以上

12



貴校元芳第10号

昭和十四年二月十九日

此九冊在表林式會社

陳者



表破版

御清詳。事。存。上。等。事。

省納衣現金均込此の係件

首題の件。関。別紙の通り。昭和十四年一月十七日付。元芳於六六二号

主。以上。通知。行。為。り。事。件。之。御。抄。係。申。上。等。事。

元換。取。了。書。下。之。心。

4号

所長	次長	主任	書記	庶務	下

支店第一一號

昭和廿四年二月五日



所

- 九州支店本部 (営業、庶務)
- 事務課
 - 庶務課
 - 所ノ木、戸倉、幸小倉、高田支店所
 - 筑野支店所
 - 飯塚、上山田、伊田、折尾支店所
 - 山形支店所

社長 公門 九州支店 若 支 部 長

(一編 巻)



門司支店局長 佐藤 邦
 小倉支店部長 藤田 隆
 福岡市長崎長 佐々木 謙
 直方、筑後、田川支店長
 大野 通
 長崎 長

支店 愈々調済業之場大座に存じます

二月廿五號 直石長井 廣増 廣運 廣合 廣國 廣佐の件
 首領 定例會議を左記の通り開催しますから御忙中並給午ら是非御出席下さ
 り。尚、御出席に付きましては、御出席の御當日もある事として、事務諸しく御説明願へ
 る方(定例責任者)の御出席を切望致します。



日時及場所

二月十四日十時 用川地区
二月十五日十時 真室(北越)地区
二月十六日十時 飯塚(北越)地区
二月十七日九時半 直方地区

於三井物産

新藤塚事務所

於直方地区

於直方地区

説明

- (1) 貨車運送状勢並に貨車供給計画に關して(鐵道側より)
- (2) 最近の製糖業の現状に付て (石炭側より)
- (3) 配車状況並に供給計畫に付て (公園側より)
- (4) 二月中供給計畫の再検討
- (5) 三月中供給計畫の再検討
- (6) 其の他追及打合せに付て

一月中 供給計畫の再検討に付て

供給見込に付きましては毎々御手紙を煩はして實に恐惶して居りますが
今度も御面倒なから御添付表に夫々御記入の上當日必ず御持参下さる。

二月申領給息表

各賞額は十日迄の積登を御記入願ひます

三月申領給付積算表

右は同月の事として御知事もいふ事は存じますが、弊公同としてしましては賞額
の算出の資料に非ずれば計帳の細差故に在取額迄大きく相違しますので、
計帳の算出と御算出下さいまして、弊社右取積算額へ相違の「三分分
」は「三分分」の算出に御算出下さいませ。

「三月分」取積算額等取積算表は本會議に全額の内出金もありませんので
當日併し御持参下さい。

敬
具

④ 二月中新給付表

各買取は十日迄の数量を御記入願ひます

⑤ 三月中銘柄別供給買取區別表

右は同月の事として和南才もその事とは存じますが、弊会同としてしましては貴國
御買取の右資料に基き得た計量の調査並に理取関係等大きく相違しますので、
是等の事情を御と御考案下さいまして、特に右買取支局へ同月の「三月份戻
り表」、銘柄別出戻り買取表」等とも御計開の上御に責任あるものを御申出下さ
います様此の良節に御願ひ申し上げます。

⑥ 石炭局現地支局へ五部酒井間の事となつて居ります

「三月份戻り表」等別出戻り買取表」は本會談に全届の御出願もありませんので
貴日御面御持参下さい。

敬 具

々



若文第二號
昭和二十四年一月六日



62

門司 小倉 福岡 佐賀 長門 萩 下関 宇布 門司 小倉 福岡 佐賀 長門 萩 下関 宇布

鳥ノ木、戸越、車小倉、和田洗知所
山元社在員

批戻公同九州支店
（一）

拜啓新春の賀々御慶甚之候大に益に存じます。 願者

貴船定例會社を左記の通り御出願しますから御多用中恐縮ながら是非
御出願先達へ付しましては當分の御旨日候もあることとて御開許し
御出願願ひの方へ（生産責任者）の御出願を御察致します。



一日時及場所

一月十二日十時 仙臺地区（南、北） 於仙臺工會事務所
一月十三日十時 田川地区 於三井物産會
一月十四日十時 四方地区 於四方工會事務所

議題

(1) 貨取進出状況勢並に預取金は此車に關して（鐵道側より）
(2) 最近の九坊炭及び須賀長山炭状況に付て（石炭側より）
(3) 仕狀状況並に供給計畫に付て

一月十月中供給計畫の再檢討
二月十月中供給計畫の再檢討
併其の進取打合せに付いて

一月中 供給計畫の再檢討に付いて

供給見込に付きましては毎々御手紙を預ねして添附致して居りますが御
面供交が別紙添付致に夫々御記入の上言ひ必ず御持参下さい。

一月十月中供給見込致
各貨取は十日迄の取量を御記入願ひます。
二月十月中供給見込致

若し何月の事として御知もないことは存じますが、辨公館としてましては、貴
館御提出の右資料に基き、此長計書の調査等に配当関係等に大きく影響する
ので、最近の實際を知らしめ御考察下さるゝとして、真に責任あるものを御申出下
さすべく、此の報告に御願ひ申上げます。

敬 具

通 函

由 二月十五日迄に石炭株式会社文庫へ五部御提出の事となつて居ります。

「二月分長計別等御提出取替表」
東地山の同社本部に同用の御提出もありませんので、當日併御提出下さ
さ。

由 二月二日附若支隊第九五號郵便を以つて廿三年第三、四半期使用費の
山元相費石炭製糖御管理調査(湖工角金行のもの)の辨公館先惠展方に
付し御願ひ申上げて宜ましたため、之亦未提出の向に當日御提出下さるゝ。
右は辨公館に於て取扱い御同由工局に一括送越の上、同局より第八号へ報告
するものに付し御提出期日は特記御遵守願ひます。
前送越の届は辨公館受取を必ず宜しに御下さるゝ。

再

辨

也

老史圖書室三期
昭和四年一月二日

山元殿在負



山元殿在負
岩松文部長
(御覽)

解谷

念之御情察之致、慶賀に在りし事

陳者

第三四半期(山元消費)及從需者別當證明書
(尚書奉行の日) 送交に付、御覆の件

61

頭著使用済み物付、山元公團に於て取違の福不高高に一付送度す、積金局
より依頼を交けて、所定より予中、教員別當、済可衣に夫中、記念上本件
十言迄に貴公指當の弊、殿在負送、予中提出類の日付、 敬具

逆市 山元殿在負殿に申上りし事

右通り各社、延に第三四半期使用済み山元消費別當證明書、貴社迄
提案す、依頼致し、思ひより、取付。上本月十五日迄に所定送
給事、可送す、提出類の日付

以上

官廳定例會議を本月も亦左記の通り開催せしむすから御氣忙中恐相

て予が是非御出席下さい。

御出席見込、貯炭辨出席に付き、詳細御協議申上げますので責任ある方、特に生産責任者への御出席を御希望致します。

一日時及場所

十月十三日十時

田川地区 於田川市自給倉庫

十月十四日九時

直方地区 於相賀館(ダラシ)製糖所(

十月十五日十時

豊後(豊後地区) 於豊後産糖工會配所

十月十六日十時

豊前(豊前地区) 於豊前商工自給所

議

御貨取振振状況並に御質問等御即事に臨して(御質問より)

(御最近の九州炭及び地産炭出炭状況に付て)御協議あり)

(御炭炭税課税に付て御協議あり)

(御十月月中旬供給計画の御協議あり)

(御十一月中旬供給計画の御協議あり)

(御其の他諸般打合せに付て)

(御)

(御)

(御)

(御)

(御)

(御)



十月中

供給計畫の再相討せ付て

供給見込に付きましては在々御手帳を預けまして送附致して居ります
すが、今度も御前例午ら御紙帳所迄に夫々御記入の上當日必ず御
轉送下さい。

十月月中供給見込表

各賞物は言葉附日誌の最も新しい数量を御記入願ひます。

例十一月中銘別供給見込表
右例月の筆とて増加するものもあれば減少するものもあつて居ります
は貴部御提出の右例表に添ひて御記入願ひます。御記入の際に御提出
に大きく誤り等と申す下す御注意願ひます。御記入の御注意願ひます。
右例表内必ず御記入願ひます。

追記

石炭局御地文局へ其紙帳御送付のこと公つて居ります。十二月
分紙帳別、御紙帳別紙帳御送付は石炭局より貴紙帳に指示で本局と御地文局
御提出願ひます。





若文閣第四三九號

昭和廿三年九月九日



小倉管区沼津事務所
石原馬、直方、支那長
飯塚、田川、見田長

股

寫

- 九州支區調整部、幹部長區
- 新藤木、戸畑、真小倉、北田現産所
- 庶務事務所
- 飯塚、上山田、伊田、折尾沼津事務所
- 山元駐在員
- 事務部

肥後公團九州支團

若松支團長

(號) 覽

拜啓 謹啓 簡しき折別表々御送附之段大慶に存じます

九月地區石炭増産、増送連絡會議開催の件

首明定期會議を左記の通り開催致しますから御精忙中恐縮ですが是非御出席下さることを希望致します。

御出席見込、御出席等に付詳細御協議申上げますので責任ある方の御出席を希望致します。

二日時及場所

九月十五日十時 飯塚（北部地區）於飯塚商工會議所

讀者

九月十六日十時
九月十七日十時
九月十八日九時

飯塚（海部地區）
田川地區
直方地區

於飯塚前工會事務所
於三井堂俗堂
於直方前工會事務所

演題

(1) 貨車運送費増進に對する運費提議輸運車に關して（餘值何より）
(2) 廿三年度第三・四半期決算報告書提出後計畫並に最近の九州（東部）方面の現況に對して（石炭何より）

(3) 運賃状況並に供給計畫の再檢討
(4) 九月中供給計畫の再檢討

(5) 十月中供給計畫の再檢討
(6) 其の他提議打合せ等付

九月中 供給計畫の再檢討に付て

十月 供給見込に付きましては毎々御手紙を加はして添筆致して居ります。今
度も御面會字も別紙添附表に夫々御記入の上當日必ず御捺印下さい。

同 九月中供給見込表
各貴識は會議前日迄の最も新しい數量を御記入の事
同 十月中銘柄別供給實際見込表

前例月の事とて御知でもないことには存じますが、弊公団としてましては、資材の
採出の右資材に並み直ちに配賦計畫の調整並に配車關係を大きく影響を及ぼすので
案件の貴公団と御交渉下さいまして従らに貨車獲得の間に配入の御機宜に
任憑る数量を御申下下さいませ、此の點特に御願ひ申上げます。

敬 具

追 附

石長郡長官宛へ江尾郡長宛りことなつて居ります。十一月分長官宛
「等級別出長計畫表」未提出の由は、當日付附郵封封入下さい。

再 拜

58

期	日	月	年	日	月	年	日	月	年

島廻度切取

若
支
家
一
五
号
昭和二十二年八月十日



島一支部(兼頭)出頭整理

若
支
部
長
(兼
務)

硝石と商品切取り処理の件

●頭書硝石に罷り出したる生産業者は需者より
 商品切取り取扱の方を望みかゝりたて
 関係各所と打合せの結果別表に處理要領並びに
 混合率合を以て商品切取り處理の事となり
 了したるに依り御下取直致し御取計被下度

以上

//

燐石高の切と處理要領

一 山元駐在員は炭標に高の切と明記し炭標裏面に混合歩合と書く。

（此の場合炭標に書と間違ひらむ様充分留意のこし若し間違ひありたる場合と之へとも原則として現業所は炭標一本にて整理す。）

ニ 送炭日報には。燐石高の切。〇〇屯と書き。輸送期に混合歩合により塊粉別数量を明記のこし。数量に端数を生じた時は混合歩合の多い方に端数も

切上げ少ない方の端数は切捨のこし。

例へば。坪地燐石の場合一五下貨車台は

別表混合歩合により塊四五下粉一〇五下と存す。此の

處理は塊四粉十一屯として處理報告のこし。

三 現業所は塊粉別数量を報告のこし。

端数處理については二項要領による。

四 積込の際は令折資料採取の便なる如く原則として塊粉別に積込を行ふこと。

五 右取扱は八月廿一日より八月廿九日まで計九日間に換

つて高の切として出たものについては別表混合歩合による

塊粉別数量を報告のこし。端数を生じた場合は端

数の多い報告のこし。

六 別表混合歩合は一車毎として駐在員と會合のこしに積込台を行ふ。

七 山元駐在員は炭標に混合歩合を存す。或は未換切の商品切として積出のこし。混合歩合は直ちに支那駐在現

業所に報告す。と共に炭標側に嚴重警告のこし。

石報告に基き支那は適當なる措置を講ずる。

以上

燔石泥合歩合

- 一 峰地 燔石塊 拾 (三。%)
- 二 大峰 燔石塊 拾 (七。%)
- 三 三井田川 燔石塊 拾 (七。%)
- 四 上皇別 燔石塊 拾 (七。%)
- 五 草堂江口 燔石塊 拾 (七。%)
- 六 大森 燔石塊 拾 (八。%)
- 七 須藤 村燔石塊 拾 (三。%)
- 八 新庄大走 燔石塊 拾 (三。%)
- 九 島田 燔石塊 拾 (六。%)

九調輸才三〇号

昭和二十三年八月十一日

協同産協要定局
若松支店頭置事務所

配炭公団

九州支店長

(輸送)

密
通

炭磁長殿

八月九月貯炭取出し日額授出に關する件

昨日通方ニ於テ開議セラレテ夏期増産増送協議會
席上福岡經濟安定局長ヨリ貴磁、御了解ヲ得マ
シテ題記報告書ヲ一ムヲ別紙ノ通り決定致シマシタ
テ御諒承爾今当方山元駐在員經由毎日筑豊運路
車務所宛御提出相成度
尚貯炭取出し從事セテ作業人員數ヲ参考、タン併セ
御記入被下度

以上

57



1934年7月分

117

煤礦 煤質 煤質 煤質

新設支那煤礦 柳中
昭和23年7月分

煤礦 煤質 煤質

品名	單位	前月未貯炭	本月中出炭	山元消費	本月中貯炭	本月未貯炭	備 考
無煙煤	噸	6	41	1115	460	674	22
水洗中煤	噸	5	30	759		461	358
無煙小煤	噸	5	24	34		43	13
無煙粉	噸	8	252	2307	30	2263	267
無煙切	噸	9	2121	160		60	2221
煤石煤	噸	6	73	856		869	90
煤石粉	噸	5	381	2910		3467	424
煤石切	噸	7	1798			90	1108 / 600 屯田粉 = 煤質
四尺煤	噸	5	251	110		134	12
四尺粉	噸	10	62	346		382	26
計			4788	8998	600	8645	4541



附 八月申儀見込書

〔各員御口申儀日迄の取も取らしぬ取算を御記入の巻〕

御月〇とて御取付もなれど、は存じますが御公卿としましては
願御出の右費付に悉き直ちに此能取付世の御金並に取御取付に大
御さすので是迄の取付を御取付下さいまして従前に御取付の取
付取入らぬ取付に責任ある取算を御取付下さいます御取付ひ申上げます
右御案内方御取付

神	次	長	長	長	長	長

54

又統券一四六號
 昭和十七年七月八日

勸業
 勸業
 勸業

配成公團
 九州
 文團



指定統計士成可限 生産月報の係り件

若き日盛りに嚴し折柄増産に二路市道進の事し存し

謝致してありし事

さて今秋七月より指定統計資料として土成可限(毎

月可立)日進)土産月報(毎翌月五日迄)五頁強として地方石炭

高(根)及び小(事)にたりし事し公團と從來より山元監

在員と通して各町及び各月の土成山炭之成可限産率諸天候



と貴安より申知らせ願ひ申す間條上今後石炭の報告は
と火積の間に干一紙の生すところの所から即合のありてす
平手紙三項の間に干一紙の生すところの所から即合のありてす
と石炭の報告は石炭の生すところの所から即合のありてす
は石炭の報告は石炭の生すところの所から即合のありてす
は石炭の報告は石炭の生すところの所から即合のありてす

以
上

PEI 岩 1/10
 何 日 岩 運 給 予 心 計

長 橋 第 一



被 所 受 節 實 該 調

若 松 支 部 調 査 御 中

昭和 23 年 6 月 分



島 根 縣 農 業 課



品 別	種 別	前 月 末 貯 炭	本 月 中 出 炭	山 元 消 費	本 月 中 貯 炭	本 月 中 貯 炭	備 考
無 煙 塊	4 6		1131	530	560	41	
本 洗 中 塊	4 5	10	621		601	30	
無 煙 小 塊	4 5	41	67		85	24	
無 煙 粉	4 8	650	2500	40	2257	253	150 電 錫 石 塊 = 振 替 450 電 錫 石 切 = 振 替
無 煙 礫	4 9	3120	301			2121	1300 電 錫 石 切 = 振 替
備 石 塊	5 6	48	1041		1166	73	
備 石 粉	5 5	1007	3191		3607	381	250 電 錫 石 粉 = 振 替
備 石 切	5 7	103			15	1798	40 電 錫 石 礫 = 振 替
四 尺 塊	1 9	3	201	10	89	5	
四 尺 粉	1 10	43	503		734	62	
計		5025	9557	680	9114	4788	

53

52

所長	次長	事務長	課長	係長
	〇		〇	〇

〇〇〇〇
〇〇〇〇

局長室

昭和二十三年六月二十九日

編者
大石
式目
社
高
川
用
場
所

紀興公園九期文庫

出興五ヶ午訂定興志調査に關する件

九期々第一六號で御返書ありました旨報の行装紙の通り御同報
早上五丁



出資五十年要項調査表

区 名	區 界	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備 考	
島 田 市	一 區 中 區	現 股 債	7,000	10,800	10,800	10,800	29,400	
		新 規	—	10,800	1,300	1,300	1,300	
	二 區 南 區	現 股 債	57,600	60,000	60,000	60,000	70,000	
		新 規	—	—	—	—	—	
	三 區 北 區	現 股 債	50,000	51,000	51,000	51,000	33,000	
		新 規	11,000	36,000	31,000	31,000	39,000	
	合 計	現 股 債	119,600	121,800	121,800	121,800	129,000	
		新 規	11,000	60,000	66,000	66,000	69,000	
		合 計	128,600	181,800	187,800	187,800	198,000	

② 有 限 公 司 五 年 分 ②

区 名	區 界	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備 考
島 田 市	現 股 債	12,600	12,600	13,800	13,800	13,800	
	新 規	1,800	60,000	60,000	60,000	70,000	
	計	14,400	72,600	73,800	73,800	83,800	

51

姓名	官位	職名	課長	係長	係員

若夫胡才空太師

昭和廿三年六月七日

門司支店局長 櫻井 謙次
 小倉支店局長 藤田 謙次
 石炭局長 飯田 支局長
 係長 係員

九州支店局長
 山口支店局長
 長門支店局長
 宇部支店局長
 萩支店局長
 下関支店局長

配皮公園九州支店
 若松支店
 部長 飯田
 (調整)

清原益一 中清原益一 慶に存し 主

陳者

七月 地石皮増産増送連絡會議開 催の件
 前選定例會議に依り南備各支店より報告ありしより南備各支店
 中清原益一 中清原益一 中清原益一 中清原益一 中清原益一
 尚從來に會議同様の月分を以ては檢討のみは終了したくは
 ありしが本月より七月分は檢討済みは七月分は對して
 一々詳しに別表に於て中清原益一 慶に存し 主



付しては、同業職問を導し、今迄飯塚地区関係の志者の方には、大
作進退を妨げし、丹下、下田、有田、飯塚地区関係の志者の方には、大
々々、のり、た、左、右、向、承、知、言、を、覆、ひ、し、す。
南部地区の、山、野、原、林、を、伐、り、荒、蕪、水、俵、飯、塚、以、南、の、山、林、を、伐、り、飯、塚、取、替、を、
北、部、地、区、(南、部、に、在、る、もの)

一日時及場所

三月十六日 十時 飯塚(北部)地区 於 東町公會堂

七月十七日 十時 (南部)地区 於 東町公會堂

七月十九日 十時 田川地区 於 三井學堂

七月廿一日 九時 直方地区 於 飯塚公會堂

一議題

の貨車積込状態を、飯塚取替地区に、(飯塚側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

四月、四月期、五月期、六月期、七月期、八月期、九月期、十月期、十一月期、十二月期、
の配賦状況に、供給計画に付て、(公團側より)

六月外債設計書の再検討に付て
 供給見込に付きより、七月外債見込表並に八月甲
 子外債面額等から別紙添付表、七月外債見込表並に八月甲
 子外債別紙添付表見込に市債入之當日市債参預を示す
 尚例月の年として市債入之こと同様に、市債が解公債として、
 日英境山の右岸料下基に直ちに配分設計書の調整を此年同様等
 入之に調整を示す。又最近の實況を市債参預は境所野原、井山に付
 二日は領軍に於ては相當の心配を有す。従つて貸付獲得
 の面に陥入るの恐れ外債設計書と異に責任ある数量を市債に上下さ
 せしむるに預上計を示す。

右市債案内等と申す道知造

録六

334
 22 79 | 9000
 87
 —
 160
 87
 —
 273
 22 | 30
 —
 116
 3
 —
 223
 200
 —
 234
 30
 —
 305
 302
 —
 640
 305
 —
 945
 640
 —
 305
 —
 650

22 240 300 520
 22 100 400
 22 30 50
 22 400 2400
 22 2700
 22 200 1100
 22 1300 3900
 22 50 100
 22 150 100
 22 200
 22 4000 8000
 22 700 5500
 22 2000 8300
 22 6400 5000
 22 9000 7700
 22 2000 5700

送	次	物	表	表	表
送	次	物	表	表	表

50

若分總人部

昭和十三年六月十七日

345



東京
株式會社
長

東京市豊島区

配戻公函九州支店
若松分室信務課長

貴社推選當公同山元駐在員松本義文の住居に關する件

拜啓 時下向禁の御貴社並々御清榮之殿慶賀の至りに存じま
 振て御書の件に關して松本義文の現在居住してゐる住宅は家主より盛
 に立退きを勧告されて居る状態で本人は非常に困窮して居りますので貴
 社の社宅の一部でも御借出来れば幸甚の至りに存じます
 貴社御手を入られて是給ですが何分の御高配に預りたく宜しく御願ひ致
 します

御手抄乍ら折返し御返答に候し度

敬 具

券受書第十三號
昭和二十三年六月十八日

九州支那銀行
第一號通帳簿附

議事録
議事録
議事録

議事録
議事録
議事録

密廻炭礦

林洋子 出席

出席

面會 初回の興業並益々増進の事と存じ上げます 以上

振興事業に關する事項を協議の件

先攻来より種々の精力を懸けて居りました所、振興事業も既に予定敷し

ましたので、左記に依り、前記に關する協定款したる旨、万障御済ませの上、

非御座る様、下記既取為と御座申上げます。

沖田田長等が加付は既片願御座るに於いて、御一任御下しと看做しますので

此の御承取御下取

(日時) 六月十八日 月曜日 午前九時

(場所) 公會堂 (岩倉)

一 議定 既所議事新協定に關する件



所長	次長	事務長	庶務長	書記	庶務



若支湖岸二三流
船程五三十一日下凡

高田 友成 御中

既英公団九角文印
正印文部長

(副印)

拜啓 茲以陸高の事と存せし中、陳有
首題之例念裁を記す通し、開復致し、事可から
以、中一、下、恐、備、是、非、中、出、信、下、度、

一、自、時、及、場、所

- 六月七日 十時 飯塚地区 飯塚南二合落片
- 六月八日 五時 直方地区 飯塚南二合落片
- 六月九日 十時 田川地区 飯塚南二合落片

九州及四國領事館
事務長 友成 御中
大正十一年六月十日
上海領事館 友成 御中



二 議題

の貸半額送付券並に乳牛運送料をに開く(鉄道側)
四最近の九月並に乳牛運送料を付す (同上側)
の配戻状況は供給討正に付す (同上側)
その他送付打合せに付す

七月の供給計画の再検討に付す

供給見込に付す(これはあくまで教を煩いと認めて
承り、今田もその面判別後、後付本は七月の供給計画)
供給を際見込と見込入りの當り持たず、格下し、
向明のへや、から、物、も、い、と、口、の、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

は、置、置、出、の、右、左、料、に、是、て、意、下、視、加、商、工、局、に、送、出、す、七、月
の、左、側、別、手、続、別、出、発、料、を、依、り、教、を、付、す、配、戻、計、画、の
到、期、計、画、並、に、配、戻、の、左、右、の、資、料、を、も、ち、り、す、り、て、最、近、の、
資、料、の、左、右、を、出、見、之、野、原、再、出、産、計、付、て、は、元、分、の、計、
算、に、付、す、と、是、の、教、を、も、ち、り、出、下、す、格、下、腹、に、上、
付、す、り、
右、の、各、手、続、を、以、て、依、存、す、

教、一、〇

連中七月の末、河津川沿いに上庄村迄、衣夏不雨、高土が提出す。

本庄止。向口第の御所内符をりり。

「各段上、送炭、御路調、中儀類を付す。」

今取に、白より別本様、山方字様をうりり。

相ふに、道品、輸送のに、聞し、通、御ら、資料、今、後、も、
時、炭、出、出、対、不、に、て、常、に、之、の、問、題、と、な、る、の、で、あ、ら、う、に、在、
敷、を、短、く、し、下、思、前、引、路、を、行、様、式、に、依、り、前、部、に、宛、
め、赤、表、の、上、條、を、付、す、り、付、す、り、す、り、赤、表、の、宛、
路、に、付、す、り。

山元、重、在、夏、風、に、申、上、け、す、り。

赤、表、の、上、條、を、付、す、り、其、他、の、事、宜、に、付、し、申、合、で、度、い、と、申、心、
を、す、り、後、に、各、段、を、御、ら、し、上、庄、出、席、御、ら、す、り。

向、不、得、止、出、席、の、中、に、度、候、の、事、記、御、符、に、下、の、字、様、を、付、
す、り、後、に、上、庄、御、ら、す、り、右、の、右、の、御、符、に、依、り、出、席、は、出、席、
御、心、に、御、部、に、宛、本、様、を、御、ら、し、申、上、け、す、り、右、の、御、符、に、
依、り、

右、上

舟、座

昭和23年5月分
若松支部調整課帳中



島根県会館

島輪巻第 86 號

銘柄別	種別	等級	前月末貯戻	本月中出戻	山元 前買	平均相場	本月初買	備考
無煙煤	♀	6		816	271	545		
水洗中塊	♀	5	19	592		601	10	
無煙小塊	♀	5	12	44		15	41	
無煙粉	♀	8	425	2563	35	2303	650	50無切=振替
無煙切	♀	9	2912	137	264	180	3120	
せん石塊	5	6	113	1056		1121	48	
せん石粉	5	5	336	3112		3474	1007	150無煙=振替
特せん石	5	1	1048				0	1048無せん石=振替
せん石塊	5	7	170	262		329	103	
四尺塊	1	9	0	232	110	119	3	
四尺粉	1	10	43	599		599	43	
合計			5078	9913	680	9286	5025	

447

若文書・郵便

昭和廿三年五月十三日

第一文書送達部（完結）各種

常光局（実務課）各種

西ノ公庫九州支庫

若 秋 支 部

（業 務）

次 長	
課 長	
課 長	
課 長	
課 長	
課 長	

島根県 函



町名

若秋支郵便務課の業務内容御重知の件

今般事務分掌業務委託御重知の件及び若秋支郵便務課設置せられ五月十日より左記様相にて業務内容を出て受取致しましたので御通知申上げます

記

業務

業務

業務

業務委託 倉庫賃借、事故処理、情報処理、係に任せざる事項

施設関係 郵便貯蓄、非課税ソフトの運用、灌漑灌漑、飛鳥調査

施設関係 郵便貯蓄、非課税ソフトの運用、灌漑灌漑、飛鳥調査

施設関係 正業執行指導、標準考査設定、検査成績の整備

尚書方への御報告事項等以並様各御関係へ御通知し度

右御通知等々御重知

敬 具

46



香葉事品詳

昭和三年正月十日

山東省立第一中學 啟

孫君啓者

山之南黃水中央路成裕行內

本園有別致之通多通深以得入下之貴社濟坐各塊山元清黃水各事現在

台園七十餘種付言。已於三月三日。及就修及。依。本月十日。通。通。

尚長居於。業。方。特。主。音。選。擇。州。唯。一。記。入。下。

配發之團五廿五國

業齊部(業種)



44



山東省立第一中學



一議題

の貨車密送状態を正しく把握せしめ輸送配率に關して（飲道等）

四月半度合計生産日割三十分態に計する支州並に販賣放出度

を考慮し最速に販賣放出状態に付て（南二向了）

（四）販賣放出並に供給計画に付て（公園等）

（五）其の他運送打合せ

五月の供給計画の再検討に付て

供給見込に付て三月より四月にかけての間に、市子敷上頭りして恐縮致し、所り、

下の今同封又甲面例分ララ列紙添付本に五月中一ヶ月の銀柄券供

給實際見込量に甲記入上當り、而して存限の上下

尚例月の手とて、市子敷上頭りして、予計が弊公同として、

日管提出の各資料、甚だ是れ、現地、向三局に提出、五月の販賣列

年販列の供給計画を、この度は、販賣計画の調整資料、

主として、販賣の、市子敷上頭りして、

所成放出量に付て、充分に再検討下さるべくして責任ある数量を甲中

出さる、予計、市子敷上頭りして、

右中、市子敷、市子敷、

敬具

逆市 六月分の交種利等額計出度計出表（足地高三向と液所）五
年中提出するに、天根の向日当日併、市中持券下り。

并詳

山毛駐在員殿に申上げし事

此中口配午開券其の他ノ事項につ、打合せたいと思ひ、子持ノ各
麻中勸口の上市を併、積りて、

尚不得止地幣、これ、度毎の予地資料、市子表を、市持券
の積張の上り、

尚市而、例下、尚、当方基礎資料に、随度、上り、

廿三年、度、度、毎、別、月、別、出、度、元、消、費、運、度、月、末、貯、蓄、数
量（千、数、量）、を、別、紙、換、式、に、し、調、査、申、込、入、上、當、日、併、而、

市持券下り、

又上

油田運送所新受給



控

抗所受部實額調

若松支那調整課 和申

昭和23年4月分

共同石英探 島 尾 礦 業 所
業株式會社

高輪長第
11號

27

銘柄別	種別	等級	前月未消費	本月中消費	山元消費	本月中消費	本月中消費	備考
無煙塊	4	6		223		223		
水洗中塊	4	6	54	489		324	19	
無煙小塊	4	5	72			60	12	
無煙粉	4	8	471	1762		1808	425	
無煙切	4	8	2886	1429	870	833	3912	
せん石塊	5	6	38	863		788	113	
もん石粉	5	48	386	2716		3266	336	
特せん切	5	特外1	1648				1048	100せん石切塊300せん石粉代換券
せん石切	5	7	30	177		137	170	
四尺塊	1	9		21	21		0	
四尺粉	1	10	51	624	89	614	43	四尺切塊取付C工B7/400品
四尺切	1	特外1	71				0	
合計			5707	8304	680	8253	5078	

某所受振實額

昭和23年3月分

控

若松支部調整課御 中 昭和23年3月分

島 組 創 業 所

島輪控

銘柄別	銘柄	前月積貯	本月中出戻	山前元前	本月中出戻	本月末貯戻	備 考
無煙煤	4 6		74		74		
水洗中塊	4 6	116	585		647	54	
無煙小塊	4 5	33	84		45	72	
無煙粉	4 8	905	1651		2085	471	
無煙切	4 8	2058	1818	570	420	2886	
せん石塊	5 6	103	897		964	38	
せん石粉	5 5	673	2915		3202	386	
特せん切	5 6	2007			30	1648	327期せん石切=振替 2期せん石塊=振替
せん石切	5 7	48	58		400	30	
四尺塊	1 9						
四尺粉	1 10	106	588		643	51	
四尺切	1 11	181		110	8413	71	
合 計		6230	8670	680	5707	5707	

所長 次長 主任 課長 係長 係員



柴 炭 調 查 表

61

昭和 23 年 6 月 10 日

炭坑名	調査地場所	所在地	炭坑種別	炭石種名	炭石産地
経営者名	炭坑組織	姓 所	炭坑種別	種名	112031 坪
経営者名	炭坑組織	姓 所	炭坑種別	種名	炭石産地

炭 石 種 別		炭 石 産 地		炭 石 種 名		炭 石 産 地	
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地

炭 石 種 別		炭 石 産 地		炭 石 種 名		炭 石 産 地	
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地

炭 石 種 別		炭 石 産 地		炭 石 種 名		炭 石 産 地	
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地

炭 石 種 別		炭 石 産 地		炭 石 種 名		炭 石 産 地	
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地
炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地	炭石種名	炭石産地

昭和 23 年 6 月 10 日
 炭 石 種 別
 炭 石 産 地
 炭 石 種 名
 炭 石 産 地



米 质 调 查 表

昭和 23 年 6 月 10 日

61

米地号	所在地	所在市	米质调查年度	调查日期	调查者	调查地点	调查方法
经营者名	共田稻米株式会社	所在地	昭和二十三年	6月10日	调查者	共田稻米株式会社	调查方法
米质调查者名	共田稻米株式会社	所在地	昭和二十三年	6月10日	调查者	共田稻米株式会社	调查方法

米质调查者名	所在地	调查年度	调查日期	调查者	调查地点	调查方法	米 质 调 查	
							米 质	米 量
一等米	1.2	11471.46	11922.69	一等米	48.27%	4.27%	1.1%	
二等米	1.6	33482.71	28992.44	二等米	11.26%	3.56%	2.3%	
三等米	1.8	25399.55	32592.62	三等米	12.91%	12.91%	2.3%	
其他米	1.9	109527.3	102225.71	其他米				

米质调查者名	所在地	调查年度	调查日期	调查者	调查地点	调查方法	米 质 调 查
一等米	2.1	23.11	2.1	一等米	2.1	2.1	
二等米	2.2	23.11	2.2	二等米	2.2	2.2	
三等米	2.3	23.11	2.3	三等米	2.3	2.3	
其他米	2.4	23.11	2.4	其他米	2.4	2.4	

调查年度	调查日期	调查者	调查地点	调查方法
昭和二十三年	6月10日	调查者	共田稻米株式会社	调查方法

调查年度	调查日期	调查者	调查地点	调查方法
昭和二十三年	6月10日	调查者	共田稻米株式会社	调查方法

调查年度	调查日期	调查者	调查地点	调查方法
昭和二十三年	6月10日	调查者	共田稻米株式会社	调查方法

昭和二十三年
 6月10日
 调查者
 共田稻米株式会社
 调查地点
 共田稻米株式会社
 调查方法
 调查方法



昭和二年五月廿九日

自
林 礦 御 中

降炭用トラック運送と同件

詳茲益々御清祥、政道一奉り下

業務の一翼として軌道に東也既車計画萬全と期し配車

降炭実地も皆々様の絶大な御支拂に依り着工存分

強化し配車各礦の御期待に副ふべく計画改訂せしめ

う此に於ては口度と車数も増加し一層現有運送業務

郵便部

掛
送
書
封
印
切

(寫)業務向
各支部
各支團
各支所
各支分

若地前相下踏回一
麻法分團水村支團
(若地分營業務)

40



の成に達し公圖自体より管運運送工を不行也。兵
並に配炭各鑛より御不滿御希望より兵字多々ありて
と極率致し、また、此際左記忠願の体り配車各鑛
の充介より御註解の上御教示御願申上り、此等
是正へし、春早の是れ、御用上り、御使命を
充介の發祥致し、度々配車各鑛、御協力し、願工に
事し

左記

- 一配車上り、希望事取
- 一配車右、稼働状況
- 一運送上り、希望事取

普具

若文洞第二三六號

昭和廿三年三月十日



九州支店 (前新橋) 宛
 除部員外
 ● 藤ノ木、戸部、小太、内田班長所
 ● 北野事務所
 ● 飯塚、伊田、折尾、直方班長事務所
 ● 山元駐在日

錫廻

辰崎 洞中

肥後公園九州支店

若 松 支 部 長

(一 同 封)

拜啓 益々御慶昌之段大慶に存じます

三月地区石炭連絡會議開催の件

陳者

頭書定例會議を本月も昨左記の通り開催致しますから御多忙中急務でござ
 り是非御出席下さいませと御依頼申し上げます。

二日時及場所

三月十八日 九時 (直方地区) 於鐵道職員集會所 (御殿)

三月十九日 十時 (飯塚地区) 於飯塚商工會議所

三月二十日 十時 (田川地区) 於三井炭岳会

二 願 望 (付) 貴車輸送状勢等に貴重製輸送配車に盼して (鐵道より)

39



(1) 最近の出来状等及び廿三年度生産計画に付て（雇工により）
内配表状況等供給計画に付て（公團より）

(2) 其の他諸実行命令

四月份供給計画の再検討に付て

供給見込に付きましては都々御手紙を煩はして辱増致して辱りまするが今
馬も御座例乍ら別紙添付表に四月中の諸情別供給見込額を取配入の
上當日御持参願ひます。

同例月のこととして御知才も無い事と存じまするが、御公團としましては貴
農田の右表料に若き點に現地園工形に提出の四月份供給別、等級別、田
長所表等により設定せる供給計画の調査材料となり又配取の主要原料と
もなりますので最近の實際を御考察、出農見込、貯農揚田表に付ては充
分御検討下さいまして責任ある御意見を御申出下さいませ御願ひ申上げ
ます。

右作業内旁々在伏願也

敬 具

川

通題 五月分の戻票別・準戻別出戻計帳表（現地商工局出題所へ五割御送
出するもの）の未出題の席は當日掛御御持参下さい。

啓
拜

山元純在員殿に申し上げます

當日は配取關係其の他の事項につき打合せたいと思ひますので請々各課全
席の上御出席願ひます。

尚不得止快慮される良願の前記資料は御手飲乍ら御持参の程願ひ申し上げます

以
上

大

行立箕子三二算

昭和二十二年二月二十日

倉迫炭坑

炭坑主事折井長



運務所
昇格有 規

降炭用公團トシテ月報生旬報作成、件

前月降炭用トシテ月報生旬報、從未公團トシテ、請員者トシテ、運賃受取用トシ、作成レテ看、マレガ刀、今回公團独自、立場、於、月報及旬報、作成スル、ナ、マ、

依、行ホ一ム、今月(二月)介、至五元作成ヲ御願シス、

一 行ホ始後工期日、旬報………二日五(前月降炭用者)月報………二日五(前月降炭用者)

一 提出先、

第四回工事

九州炭坑炭賣會………業務、既材料他報告在也

下折井長

運務所折井

直轄本館

直轄運送、監理事折井

若初運送部………業務、手取運賃等天候等

若初運送部………業務、

一 以下

炭坑主事折井長(月報)

炭坑主事折井長

運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所
運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所	運務所

※ 月報生旬報、(日本炭坑主事折井長)

運務所、トシテ一月、三元、手取

一 兩字

行ホ一ム、用款、往右印刷、手取、手取、取裁、費用、作成、上

運務所、出、卸、報、生、旬、報、提出、一、下、サ、

以上、



海海

新文四第ニ二六號
昭和廿五年二月廿一日



輸送部

所長	支長	主任	係長	課長	部長

按復事務所
飯塚、伊田、上山田、折尾
各山元駐在員

肥後公署九州支署

若松支部 部長
(調 査)

鳥辺 貴義 御中

御啓 意々美清農之段火程至僅に存します。 附寄
富良野系統圖(校外圖)各に脱柱圖各二部添送附

願交条件

但高木の造り最近通院宜様に中央上りの取積調整等有之。七、七が説明材料及修
造資料として彼等農田の別開分取況送附系統圖を存製或は送附につき誠に御
多忙中乍急縮至身食出元駐在員經由御送附方御願ひ申上ります。

同送附系統圖には

- (一) 其口より貨車積込場迄の運送機軸
- (二) エンドレス
- (三) 馬車
- (四) トラック
- (五) 電車

マガソリレカー等明記の事

至急
送付願ひ
鳥辺 貴義



□各運送機務等に印類を記入の事

奥柱面には

(1)採掘完了票番

(2)現在採行票番

(3)未採掘票番

を調査を方法にて明記被下度

右常用御依頼也

山元駐在員殿に申上げます

御記下面御取廻しの上照會各運送機務所經由言詞翻譯供給係迄御送附被下度
お願ひ致します。

敬 具

其 宛

甲田運給單

.....
 此所受振實請調

控
 印

若松支店 御中

昭和23年2月分

共利石炭部 島嶼出張所
 振付式留社

品名	種類	等級	前月未行	本月中出	山元	本月未行	借	考
細煤	切	6		287		287		以所取/噸
水鏡中煤	切	6	90	684		658	116	
細煤小切	切	5	87	123		177	33	
細煤帶	切	8	1525	1284		1524	905	
細煤切	切	8	1327	1301	570		2058	
せん石鏡	切	5	137	1017		1053	103	
せん石粉	切	5	1280	2226		4303	673	
特せん切	切	5	6	723		503	2007	
せん石切	切	5	78			30	48	
四尺鏡	切	1	7					
四尺粉	切	1	10	365	519	778	106	
四尺切	切	1	97	124	110		181	
計			2395	9130	680	9615	6230	

島嶼出張所
 23號

印



所用受卸貨帳簿

右記支店帳簿 印中

昭和23年2月分

共石炭部 島根支店
昭和式留社



品名	仕入	数量	前月未卸	本月未卸	仕入	前月未卸	本月未卸	備	考
無煙煤	4	6		287			287		既所取ノ額
水洗中煤	4	6	70	684			658	116	
細煤小煤	4	5	87	123			177	33	
無煙粉	4	8	1,225	1,284			1,824	705	
無煙切	4	8	1,327	1,301	570			2,058	
世石石塊	5	6	137	1,017			1,053	103	
世石石粉	5	6	1,780	2,776			4,303	673	
特世石切	5	6	1,787	723			503	2,007	
世石石切	5	7	78				30	48	
四尺塊	1	7							
四尺粉	1	10	365	317			778	106	
四尺切	1	W	77	124	110			181	
計			7,375	9,130	680		9,615	6,230	

島根支店 20 號

分 寄 去 第 三 七 八 番
昭和二十三年一月十九日
宛 向 本 館、各 支 館、其 他 基 礎 所
請 寄 送 的 事 務 所、當 務 所 (附 属)



島 廻
辰 坑 御 中

配 属 公 館 九 州 支 館
(本 館 分 室 / 兼 務)



拜 啓 陳 者
炭 滓 (石 炭 を 含 む 炭 灰) の 取 扱 法 につ いて
炭 滓 (石 炭 を 含 む 炭 灰) の 取 扱 法 につ いて
針 に よ り 万 死 の 如 く 高 害 事 とな っ て 居 り ま す 故 に 炭 滓 取 扱 方
法 石 に 依 り 諸 事 取 扱 法 の 申 に 願 ひ 炭 滓 取 扱 法 既 に 別 紙 本 館 と 同 じ 申 し 上 げ ま す
お 為 念 考 願 ね て 御 趣 々 申 上 げ ま す

敬 具

34



若支調第三號

昭和五年二月二日

編覽部

23

島廻 炭 磁 御 申

拝啓 茲々御送來之段大段の事には存じませ

二月地区石炭連總會議開催之件

頭書之例拿錄を記し通り御送致し之を以て御申上申
是れ御申上申候下段御願申上申事也

配炭公團九州支団

若松支調長

陳春

(副長)



字

東京市山崎区石炭炭礦竹長
炭礦
四町
若松支調(御申上)

陳春

若松支調長
若松支調長
若松支調長

石炭炭礦竹長
石炭炭礦竹長
石炭炭礦竹長



(一) 日時及場所

二月十八日 土曜の九時 松尾方高工経済会 (直方地区)
三月十日 土曜の十時 佐賀県家畜公舎連 (飯塚地区)
三月十日 土曜の十時 於伊田三井製糖支店 (伊田地区)

(二) 議題

- ① 貨車輸送状況に就き、送費是輸送車に關する件、(送金より)
- ② 最近の送費状況に就き、(高工高より)
- ③ 最近の産生状況並に保畜計畫に就き、(公司より)

④ 其他決定打合せ。

供給計画に就きましては、各月内予算を燒して在ります通り、別紙添付の表(各月中生分
出来)に二月十日の實際を實際日入と併記入の上、當日毎に算被下度。

尚、例日のごとく御座りますことし、は存じますが、弊公司に在ります、其、御提出の資料に
關して現地中二局は花畑の上を以て三月五日迄の差を別紙添付の表に御提出にあり、計は
三月迄の計の期に付計となり、又、經手の送金予算計にも相成りませぬ、公送車送金は、
第一、第二、第三、再算計の上、ま事任り、表に算上り、尚中出下りも、毎報上げます。
右、尚在り申すかと御依頼致し。

敬目

追布 四月、大森別荘等處別荘を留守に、（？）地内を巡行し、
すもの（？）の未提出の向は、当日、（？）命持参を被下度。

元 駐 在 員 殿 へ 申 上 ぐ。

当日は、（？）御車閣御其の他、（？）打合せ度へと思ひ、（？）高島待降合、
二是、（？）御車閣御下度。
尚、（？）御止交席される、（？）前記資料、（？）下布手取、（？）御持参の程、（？）致します。

(女)リ

何四甲一折

號所受掛賞罰罰

昭和23年1月分

若松製粉調整課 調中

島根製粉所

品名	單位	前月末貯戻	本月中出戻	出元管	本月中進戻	本月末貯戻	備考
新麵	規 4 6		419		419		
水洗中規	規 4 6		721		631	90	順流所渡
新短規	規 4 5		208		119	89	
無類粉	規 4 8	2130	1437		2122	1445	
無類切	規 4 8	65	1842	580		1327	
世人石規	規 5 6	69	939		871	137	
世人石粉	規 5 4	2538	3528		4086	1980	
世人石切	規 5 6	1529	637		379	1787	
世人石切	規 5 7	78				78	
四規	規 1 9						
四粉	規 1 10	546	297		478	365	
四切	規 1 11		207	110		97	
合計		6955	10235	690	9103	7395	

島根製粉所 三九號

23



郵便附 一九一九年

西曆廿三年一月九日

寄： 前掲、伊用、上田明、折尾須賀所

前方、細野、田川、(1) 工務省文書館所蔵
九芝(前/後) 佐野善徳所蔵
衣田元忠在書

郵便公國五州文書

若 松 文 書 館

(郵 政 省)

郵便

大 陸 郵 中



行 書

色々御成島の身大御座候に在じま子

諸 君

西宮定例會議を左記の通り開催致し、子ので御等年中小等給是御座候
候の通り御座候し、子

31

日 時 及 場 所

西宮定例會

一月十九日

於東町公會堂

西宮定例會

一月二十日

於三井物産會

西宮定例會

一月廿一日

於飯沼町自衛會所(初定)



に
て

(1) 支取金等本邦の銀行等に送付し、同銀行等に小切手の振より
(2) 交通銀行等に預金振付に送付し、同銀行等に小切手の振より
(3) 同銀行等に及第の振付票に送付し、同銀行等に小切手の振より

振付票に送付す

(1) 一月分の振付金(支取金等)に對する上納金(振付金)を
(2) 二月分の振付金(支取金等)に對する上納金(振付金)を
支取金等として取り出すので、支取金等の上納金(振付金)を
取り出すので、支取金等の上納金(振付金)を
取り出すので、支取金等の上納金(振付金)を

に

三月分及び四月分、五月分、六月分の各月の支取金等の上納金(振付金)を

支

取

三



何亞友錄運法可也

附表 次其... 供...

號所受物買額

控

昭和22年12月

岩公文部御筆帳 御中

鳥取縣農所

鳥取縣農所
乙號

銘	品	種別	等級	前月未結算	本月中出戻	山元消費	本月中造戻	本月末貯戻	備	備
無	類	糶	4 5	322	323		323			
米	記	中	糶	4 5	522	522	522			
米	記	中	糶	4 5	30	30				
無	類	粉	4 8	1279	2262		1611	2130		
無	類	切	4 8		585	520		65		
世	人	糶	5 6	79	1135		1145	62		
世	人	粉	5 4	1748	2238		3648	2538		
世	人	切	5 6	1529				1529		
世	人	切	5 7	78				78		
四	尺	糶	1 2							
四	尺	粉	1 8	365	582		403	526		
四	尺	切	1 1等	19	101	120				
合	計			3097	10252	640	7754	6253		

30



新分業票第〇六號
昭和二十二年十二月十一日

昭和二十二年十二月十一日
212
新分業票第〇六號

文部本課・調査課

所長
次長
調査長
課長
主任
係長

高田陸統員

監査公団九州支団長
(高松分室/業務)

拜啓 日夜増産増進に御教誨のほど厚く御禮申上げます 謹言

29

監査計課の賜贈なる進行を期する為能く御依頼申上げます
 (旬割)平均品質に就ては其品質位の増進力により所々其の効果を収
 めて居りますが未だ一部に於ては生産量増進により増進効果を認め
 る處に存せられざるので此の上昇御実行方針に感佩を固前に御挨拶申
 なし得ます御礼申上げます
 御自出御指導に就ては御文部高松監査員高田陸統員に御挨拶申上げ
 下さいませ御礼に翌日の速長決定、緊急分付等について御出掛け
 前に尖々御打合せ願ふ存望御礼申上げ石版に御挨拶をなく御実行中の事と
 は存じますが重ねて御礼ひ起

敬 具



何年 何月 何日

昭和22年1月分

瓦斯受買額計

控

調整部中

島根縣業所

品名	種別	等級	前月末貯炭	本月中出炭	山元消費	本月中込炭	本月末貯炭	備	考
無煙炭	♀	5		424		424			
水洗中規	♀	5		285		285			
水洗小規	♀	5		60		60			
無煙粉	♀	9	517	2022		1260	1279		
無煙切	♀	8	74	218	292				
燐石規	5	6	111	1463		1495	79		
燐石粉	5	6	1274	3907		3433	1748	批所送5噸	
特製切	5	6	1529				1529		
燐石切	5	7	78				78		
四尺規	♀	9							
四尺粉	♀	8		668		403	365		
四尺切	♀	1	317		198		19	1000尺 =1噸	
合計			3900	9047	490	7360	5097		

島根縣業所
124
號

53



27

共

社印

鳥居設彌ノミチ

昭和二十二年十二月十日

肥後公團九州支團
若松分 三 御中

福岡県田川郡田川町
藤岡石炭礦
煉炭株式会社
鳥居設彌 御中

山元殿在良給與に係る件

若干種給第六五號で御照會をりました旨種々の件につき別紙の通り
御同報申上ます

社印

社印



本 俸 調

氏 名	昭和21年 9月現在本俸	昭和21年11月	昭和22年4月	昭和22年8月	最新給料
松 本 義 文	200.00	2倍+150圓 555圓	2780.00	7%昇給 2943.00	2943.00

基



若見調第一六號
昭和二年十二月八日

文洞啓部
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所
伊豆中務所

鳥辺

度發御中

配成三園九州文園

若松支部

(調整)

26

経度向來の候々申付白く候人其の券に存し下す
十一月地尾石成縣議會議申請の件

頭書定例會議に左記の通り申付候し下す。昨年未だ推
測の中申上り候。是れ非申上り候。十一月八日度
白崎及び湯井

十一月十日 九時直才地区 於直母堂

十一月十九日 十時飯塚地区 於柳屋

議題 於高三倉議所

貨車輸送取扱分並三度運送輸送配車水及付て
(取道側)

取近に於ける九州成下に定章度分を水發及にタラシ時期
(要南高調)

二月に依り設計画の再發行
(二園側)

方成定際見込に付て
山元消費量に付て
佐所野成松岩に付て

④ 送致予想数量並に発取別様を数量に付て

二月分供給予想

(公團側より)

1. 現状より見れば方成予想に付て

2. 山元消費見込量につて

3. 定外貯蔵品処分数量につて

4. 送致予定発取別様を数量に付て

一月分供給計画。再検討につて

議事進行の関係ありて

入の上尚回復付て是非の疑念下りて

當方は在外貯蔵品数量の送致数量に

多し之により直接貯蔵品数量に

と申。検討の上責任ある

向此の場合の支取理由を

申請を説明して

二月分供給予想に付て

右に付ては現地の

別等級別支取計画表

三局より申す

尚今回の

層より

送付

勿々

出戻料を算入し申す

當日前各帳簿を

差支あり

以て別表を

持参方

尚又會議

以二



昭和二十二年九月二十七日

逓達

第九州支店宛

所	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店
宛	〒	支店

福岡縣香森市須小崎四一
兼廣公四九州支店宛
(兼分室宛時) 二

共同名義株式會社

辨 清秋の折柄益々御清榮の勢と拜察致しませす 誠者

貴社御披露山元駐在員格與に備る件
行當時に於ける福本修(昭和二十一年九月)から最新の本件である
までの経緯を具体的に金銭に涉つて調査することになりましたので
御多忙中甚だ御手数取作ら左記に依り本御披露作製書附の上貴社御
山元駐在員に御返し願ひ度く(附貴社が御披露より遠く疑在員に手交
御不要の向は郵送願ひ度す)

九月廿七日 共同名義株式會社 代表取締役 山元 修

行達 二

25



本位帳

會社名

姓名	昭和21年9月現在本位	昭和年月改訂本位	昭和年月改訂本位	昭和年月改訂本位	最新本位

倉
記帳簿

本位帳

會社名何基

姓名	昭和21年9月現在本位	昭和21年11月改訂本位	昭和22年4月改訂本位	昭和年月改訂本位	最新本位
何基	100	二倍増割500	一倍増割500		500



若分送符第六號
昭和十二年十一月二十六日



遠達

姓	
次	
長	
番	
名	
姓	
次	
長	
番	
名	

第一航空郵便所

福岡県香取市福小
延良公園九州支店
分室
福岡

庚

英國米谷島廻

海軍 意々海軍員の回幸と海軍政しす。

本社御前山元無在員結拜に請る件

御書陸在員の當公認に於ける新船料並定貨料として御座候船令施行
當時に於ける御本埠(昭和二十一年九月)から最新の本埠になる迄の
経緯を具體的に調査中ですから御多忙中甚だの手致生も御念別紙様式
紙より御指示願ひます

開石は去る九月二十七日付若分送符第六號にて既に御届ひ致して置
きましたるが御座候程の要に備られて所りますので重ねて御届ひ致しま
す

邦華義文館

上

本 簿 簿

會 社 名

品 名	昭和21年9月現在本簿	昭和年月改訂本簿	昭和年月改訂本簿	昭和年月改訂本簿	昭和年月改訂本簿
松葉紙	2000-	昭和21年12月 改訂本簿 2張1000-11119	昭和22年11月 改訂本簿 2張1000-		2000-

記 帳 簿

本 簿 簿

會 社 名

品 名	昭和21年9月現在本簿	昭和21年12月改訂本簿	昭和22年6月改訂本簿	昭和年月改訂本簿	昭和年月改訂本簿
何 米	100	二割増減 300	一割増減 300		300

控

昭和二十二年十月十日

東京市神田区
新大塚
郵便局
入所

郵便局に送付する

手紙の宛先は

〒100 丸の内三丁目一丁目

郵便局に送付する手紙の宛先は

〒100 丸の内三丁目一丁目

郵便局に送付する手紙の宛先は

〒100 丸の内三丁目一丁目

郵便局に送付する手紙の宛先は

〒100 丸の内三丁目一丁目

郵便局に送付する手紙の宛先は

〒100 丸の内三丁目一丁目

24

卷之四

寫

小倉石丸天德

香齋

島迎

昭和三年十二月一日

筑豐事務所訂係

島迎

船元炭碓印中

山元駐在補助員手當受領比因了件

於月三十日附即送附申上候十月分山元駐在補助員受領

紙束及即送送在候 尚所整理上多大。因親三束

后、就山口寄所會訂係送貴坊印捺印。上即送送

被下度 至志即附申上候

以上

茶送心了十元 途中 給夫了元

十元

十一月十日 茶送又、二回月

編述録

天

興

公

用

封

文

書

松

通知

本又次能記付通時自午迄も十月迄を以て支給停止の事と致しま
す事ら併せ申了次第同乎致強本人にも御方より此旨冒敷御傳へ願
ひ度く御依和申上ます

以
上

22



村岡仁左

郵局 郵人部 郵局
昭和二十五年八月二十八日

郵局 郵人部 郵局
昭和二十五年八月二十八日



御啓 貴社益々御清栄之状甚宜候

拜文 岡山元駐在員御返完了候ニ七月給與ニ係ル件

由元駐在員ノ取立ハ先般來日ヨリ暫々御努力ヲ容テ貴社ニ於テ

子ハ大々取立進言ヲ申候所人物ヲ發出該下感謝ノ至リニ存候

御返ヲ取テハ進言御返完了致候間此段及御禮否候

進言御返出候下タレ駐在員ニ對シ貴社ヨリ支給細額ヒシユモ七月分

給與メツキ午御手數該人名トシノ給與内御明細額御通知御願申上

敬 具

謹啓

21



臺灣

若支疏第三三號

昭和二十二年十月二十日

苑豐事務所長



金起
補助員殿

山元駐在補助員手當支給二箇人ル件

頭書山元駐在補助員手當十月分爲替券同封申
上候間御查收被下度
の受領證一本人並貴坑名印捺印上折返當所
會訂係送呈御送附被下度御願申上候

所長
次長
事務長
課長
係長

手書不達在 宛合前



抗 戰 受 拂 實 績 調

控

日 吳 龍 課 御 中 昭和22年10月分

島 羅 鎮 業 所

品 名 別	別	噸	前月未 貯	本月中 出	山元 前借	本月中 送	本月未 貯	備 考
無煙煤	4	5		405		405		
水	4	5	15	266		281		
無煙粉	4	9	424	1616		1523	517	
無煙切	4	8	149	1278	170	1183	74	
編石塊	5	6		1507		1396	111	
編石粉	5	6	63	3359		2245	1274	
碎編石	5	6	1641			15	1529	97噸編粉=撥替
編石	5	7	78				78	
四尺切	1	8	317	1054	110	144	317	
二號無煙粉	4	8		50		50		
計			2687	9535	280	8042	3900	送炭中=抗所准90噸含△

島 羅 鎮 第 一 號

此 次 受 拂 實 績 調 長



所長
次長
課長
主任
庶務
書記

芳支筑才二六六號

昭和二十二年十月二十一日

筑波堂事務所長



補助員殿

山元駐在補助員于當支時。岡田供出

願者山元駐在補助員于當九月介為替券前封申

上候同御查取被下度。

前受相証・本人並・貴印看印・檢印・上折區・當

所會時候迄至志御法附被下度同殿白上候。

以上

20 處理済

21.10.28





若松調英八郎

昭和十三年十月廿

輸送課

島廻炭礦殿

料卷等御座品及大買乃至は存す

十月廿日居炭運協會議市權の件

毎月廿日付の序より頭等定例會議は本月日又在記
通し用儀附す可からず忙中恐縮す可は是非
御座席下三八度而預申上奉す可

所長
次長
事務
出納
検査
庶務

若松調英八郎 炭礦部 庶務課

山元駐在員

記及公團九州支團

若松支部 炭

(調整)

19

議題

一貨車輸送状況に付て（飯道側より）

一貨車輸送運配車状況に付て（飯道側より）

一最近に於ける九州旅客線貨車輸送状況及上期と成

度様につて（坂本側より）

一十月分供給計画の再検討（公園側より）

（一）貨車輸送状況に付て

（二）貨車輸送運配車状況に付て

（三）最近に於ける九州旅客線貨車輸送状況及上期と成

度様につて

（四）十月分供給計画の再検討

（五）貨車輸送状況に付て

（六）貨車輸送運配車状況に付て

（七）最近に於ける九州旅客線貨車輸送状況及上期と成

度様につて

（八）十月分供給計画の再検討

（九）貨車輸送状況に付て

（十）貨車輸送運配車状況に付て

（十一）最近に於ける九州旅客線貨車輸送状況及上期と成

度様につて

（十二）十月分供給計画の再検討

（十三）貨車輸送状況に付て

（十四）貨車輸送運配車状況に付て

（十五）最近に於ける九州旅客線貨車輸送状況及上期と成

度様につて

（十六）十月分供給計画の再検討

（十七）貨車輸送状況に付て

（十八）貨車輸送運配車状況に付て

（十九）最近に於ける九州旅客線貨車輸送状況及上期と成

度様につて